

# 日本人の英語力の規定要因分析 -JGSS-2008-のデータをもとに-

相田真美（政経2）

# 目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 仮説
4. データと分析
  - 4.1. データ
  - 4.2. 分析手法
  - 4.3. 変数
  - 4.4. 分析結果
5. おわりに



# 1. はじめに

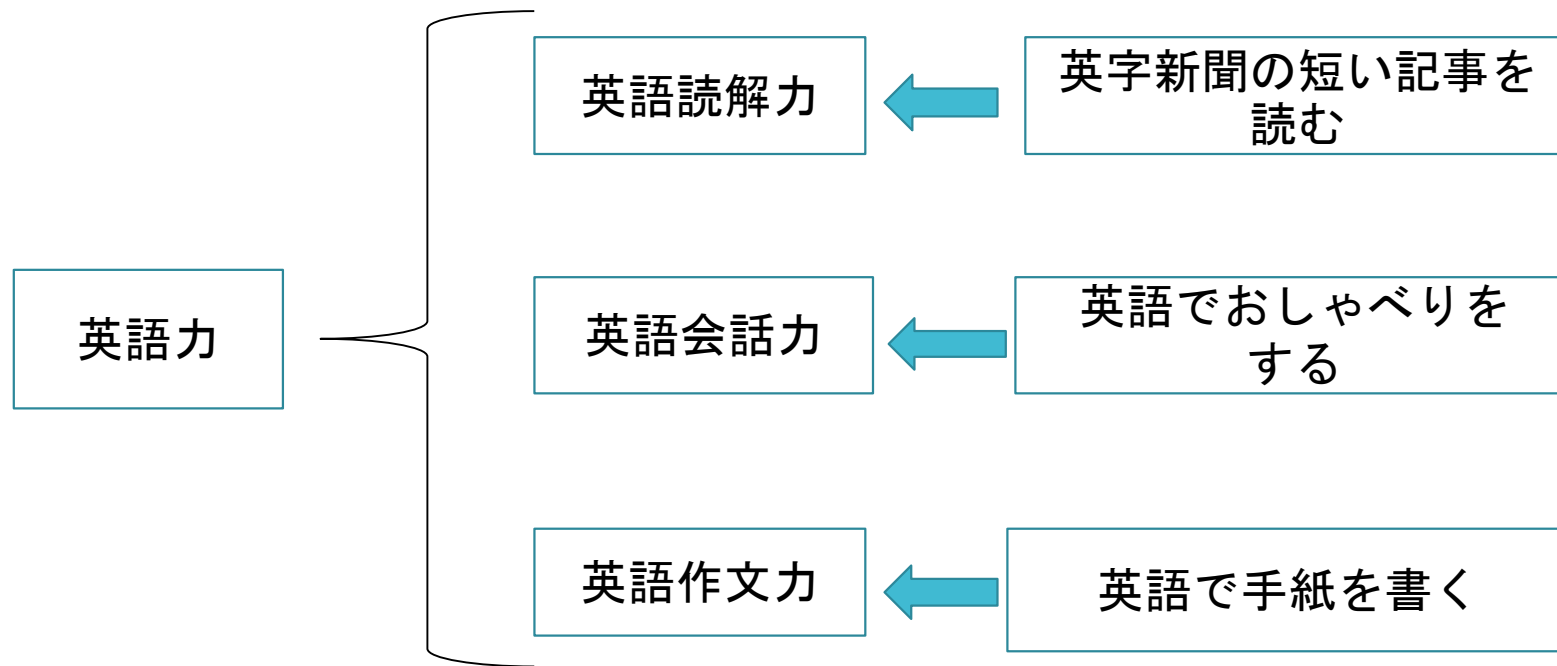
# • 本研究の目的

「英語力」向上をより効果的に行うために、  
日本人の英語力を規定する要因を分析し、  
その結果をもとに政策提言を行う

## 1. はじめに

# 1. はじめに

## • 「英語力」とは？



## 2. 先行研究

## 2. 先行研究

- 今回取り扱う8つの要因

- 高等教育
- 海外教育
- 英語使用に対する積極的態度

英語使用の期間や頻度に関する要因

- 都市化
- 世帯収入
- コーホート
- 年齢
- 性別

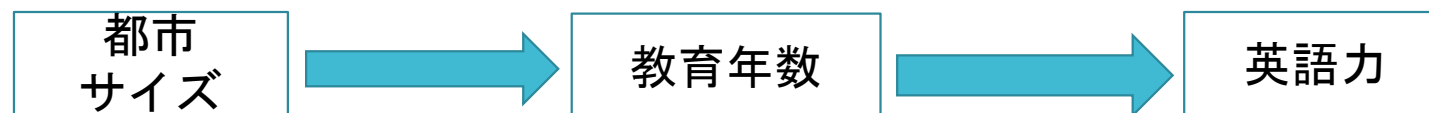
人口学的要因

## 2. 先行研究

- 直接的な影響



- 間接的な影響





## 2. 先行研究

- 第一の要因：高等教育

高等（大学・大学院）教育を受けることが英会話力の向上に最も効果的

## 2. 先行研究

- 第二の要因：海外教育

海外教育は英語力に影響を与えている

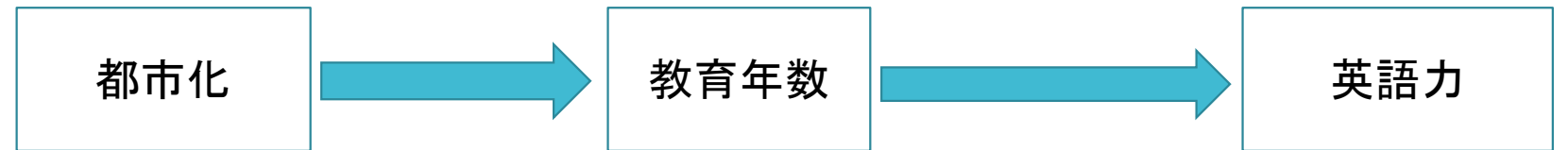
## 2. 先行研究

- 第三の要因：英語使用に対する積極的態

英語を使うことで、英語力は向上する

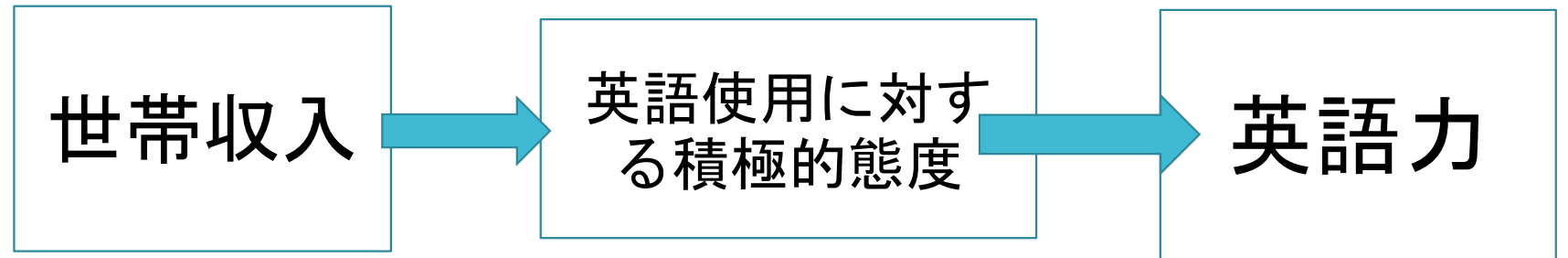
## • 第四の要因：都市化

### 2. 先行研究



- 第五の要因：世帯収入

## 2. 先行研究



## 2. 先行研究

- 第六の要因：コホート

世代間の違いが英語力に影響を与える

## 2. 先行研究

- 第七の要因：年齢

高齢になるにつれて英語力は低くなる

## 2. 先行研究

- 加齢効果

周囲の環境や影響に関係なく、年をとることで変化する効果

Ex)年を取ると体脂肪が増える

- コーホート効果

環境や経験によって受けた影響を反映した世代ごとの効果

Ex)1940年以前に生まれた人は革新的な政治思考を持つ



## 2. 先行研究

- 第八の要因：性別

女性より男性の方が英会話力が高い



## 3. 仮説



### 3. 仮説

- 仮説<sub>1</sub> : 英語力は人口学的要因の影響を受ける
- 仮説<sub>2</sub> : 英語力は加齢効果ではなく, コーホート効果の影響を受ける
- 仮説<sub>3</sub> : 英語力は英語の使用期間や使用頻度の影響を受ける

## 4. データと分析

## 4.3. 変数

### • 従属変数（結果）

英語読解力

英語会話力

英語作文力

できる/できない

## 4.3. 変数

- 独立変数（要因）
- 大学に行った/行っていない
- 13大都市に住んでいる/いない
- 0～2300万円をカテゴリー分け
- 世代分け
- 年齢
- 男/女
- 海外教育を受けたことがある/ない
- 質問項目を受け入れる/受け入れない

## 4.4. 分析結果

	モデルR1		モデルR2		モデルR3	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
都市化	0.799	2.223 ***	0.804	2.234 ***	0.701	2.017 ***
世帯収入	0.001	1.001 ***	0.001	1.001 ***	0.000	1.000
cohort20_33			1.509	4.523 ***	0.842	2.320 **
cohort34_46			1.087	2.965 ***	0.653	1.922 *
cohort47_58			0.709	2.032 **	0.469	1.599
cohort59_71			0.563	1.756 *	0.349	1.417
年齢	-0.027	0.974 ***				
性別	-0.228	0.796	-0.233	0.792	0.174	1.190
高等教育					1.597	4.937 ***
海外教育					1.029	2.798 ***
態度					0.937	2.552 ***
定数	-0.724	0.485 **	-2.917	0.054 ***	-4.161	0.016 ***
Cox-Snell R2 乗	0.065		0.066		0.153	
Nagelkerke R2 乗	0.110		0.112		0.255	
-2対数尤度	1246.204		1244.329		1062.12	
モデル $\chi^2$ 乗検定	p<0.001		p<0.001		p<0.001	

\*\*\*p<0.01,\*\*p<0.05,\*p<0.1

## 4.4. 分析結果

	モデルC4		モデルC5		モデルC6	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
都市化	0.771	2.163 ***	0.773	2.167 ***	0.661	1.937 ***
世帯収入	0.001	1.001 ***	0.001	1.001 ***	0.001	1.001 ***
cohort20_33			1.919	6.813 ***	0.993	2.699 **
cohort34_46			1.467	4.337 ***	0.810	2.248 *
cohort47_58			1.156	3.178 **	0.737	2.090
cohort59_71			0.765	2.149 *	0.409	1.505
年齢	-0.033	0.967 ***				
性別	-0.235	0.790	-0.243	0.784	0.118	1.125
高等教育					1.452	4.274 ***
海外教育					1.610	5.003 ***
態度					1.192	3.295 ***
定数	-1.138	0.320 ***	-3.946	0.019 ***	-5.272	0.005 ***
Cox-Snell R2 乗	0.067		0.145		0.153	
Nagelkerke R2 乗	0.135		0.285		0.255	
-2対数尤度	940.508		784.909		1062.12	
モデル $\chi^2$ 乗検定	p<0.001		p<0.001		p<0.001	

\*\*\*p<0.01,\*\*p<0.05,\*p<0.1



## 4.4. 分析結果

	モデルW7		モデルW8		モデルW9	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
都市化	0.838	2.311 ***	0.837	2.309 ***	0.669	1.953 ***
世帯収入	0.001	1.001 ***	0.001	1.001 ***	0.001	1.001 ***
cohort20_33			1.543	4.680 ***	0.709	2.031
cohort34_46			1.127	3.087 ***	0.546	1.727
cohort47_58			0.582	1.790	0.271	1.312
cohort59_71			0.178	1.195	-0.153	0.858
年齢	-0.035	0.966 ***				
性別	-0.106	0.899	-0.121	0.886	0.328	1.388
高等教育					1.771	5.878 ***
海外教育					1.084	2.957 ***
態度					0.716	2.046 **
定数	-1.417	0.242 ***	-3.886	0.021 ***	-4.997	0.007 ***
Cox-Snell R2 乗	0.066		0.066		0.136	
Nagelkerke R2 乗	0.138		0.138		0.277	
-2対数尤度	878.716		877.98		746.265	
モデル $\chi^2$ 乗検定	p<0.001		p<0.001		p<0.001	

\*\*\*p<0.01,\*\*p<0.05,\*p<0.1

## 4.4. 分析結果

# • 英語読解力

◎ 高等教育

○ 海外教育

○ 英語使用に対する態度

世帯収入 → 高等教育 → 英語力 ( ? )

都市化 → 高等教育 → 英語力 ( ? )

加齢効果よりもコーホート効果の影響を受けている可能性が高い

## 4.4. 分析結果

### • 英語会話力

◎海外教育

○高等教育

○英語使用に対する態度

○世帯収入

都市化→高等教育→英語力（？）

加齢効果よりもコーホート効果の影響を受けている可能性が高い

## 4.4. 分析結果

# • 英語作文力

◎ 高等教育

○ 海外教育

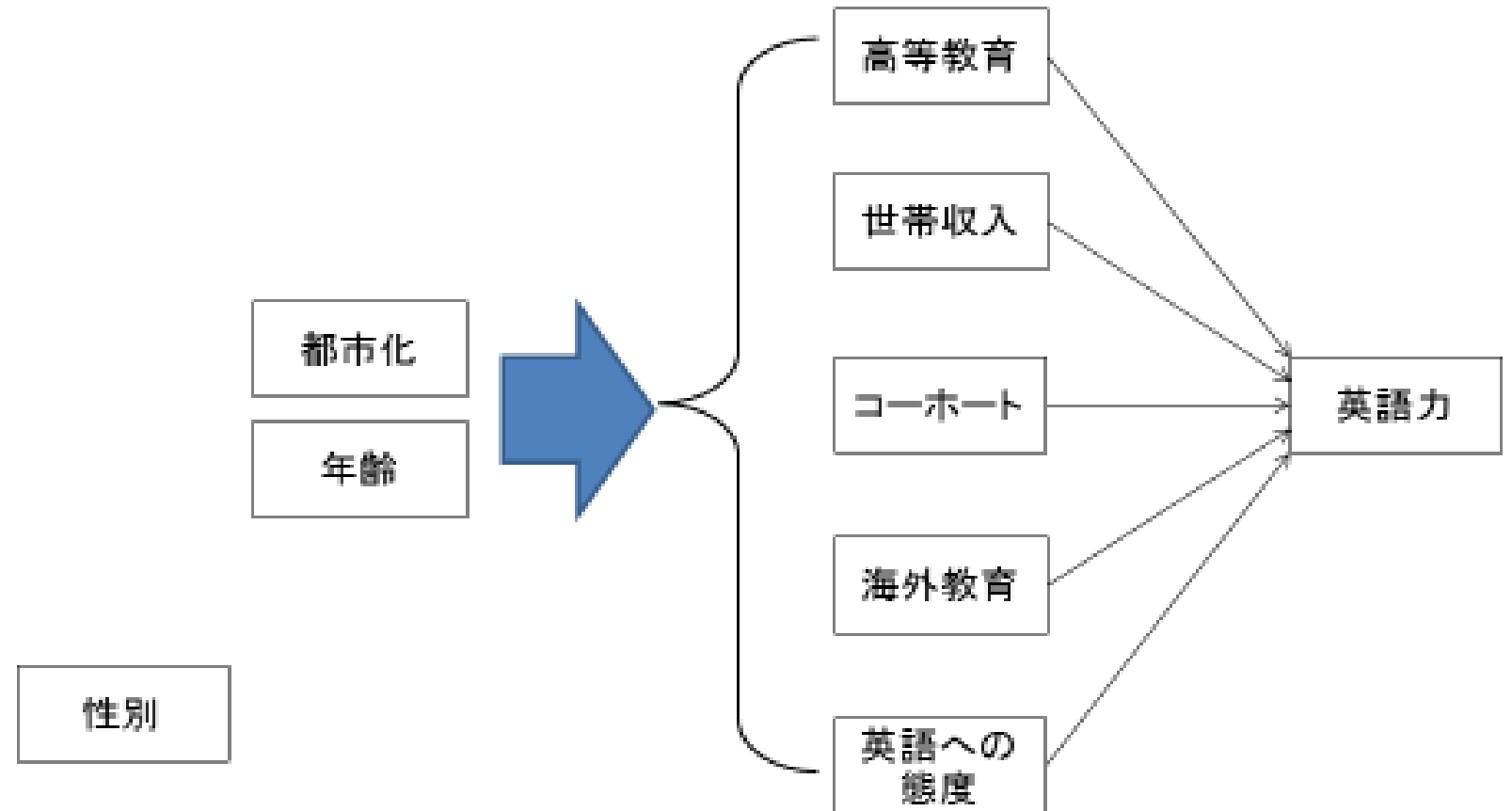
○ 英語使用に対する態度

○ 世帯収入

都市化 → 高等教育 → 英語力 ( ? )

コ－ホ－ト → 高等教育, 海外教育 →  
英語力 ( ? )

## 4.4. 分析結果





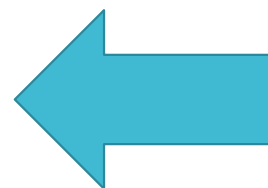
## 5. おわりに



## 5. おわりに

- 影響力が大きかった変数

- 高等教育
- 海外教育
- 英語使用に対する態度



都市化，世帯  
収入などの  
人口学的要因

## ・親の収入の影響

英語会話力

英語作文力



親の収入

5. おわりに



## 5. おわりに

→高等教育への進学に影響

- 進学のための奨学金

→海外教育に影響

- 留学のための奨学金

## 5. おわりに

### • 反省

- 留学減少の要因分析をする必要がある
- 英語に関する統計的分析が少ない  
→ データや調査を普及させていく

ご清聴ありがとうございました！